

同志社女子大学
史料センター常設展開設おおしまちゅうせい
女子大学表象文化学部教授 大島中正

同志社女子大学史料センターは、2015年の11月に常設展「同志社女子教育の歴史」を開設しました。

当センターは、1994年の開設以来、年に1度のペースで企画展示を開催してきました。しかし、「同志社女子部の母」といわれているミス・デントンの遺品などは展示されていたものの、同志社が創設当初から今日に至るまで、いかに女子教育に力を注いだか、を、皆様に知っていただく展示は十分ではありませんでした。そこで、「同志社女子教育の歴史早わかり」とでもいうべき常設展を開設することになりました。

展示は、次の5部構成になっています。

- 「I同志社女学校創設の牽引車となった三人の男性」
- 「II同志社女学校の創設」
- 「III女子高等教育への道」
- 「IV同志社女子大学の創設」
- 「V京田辺キャンパスの開設と未



来への発展」

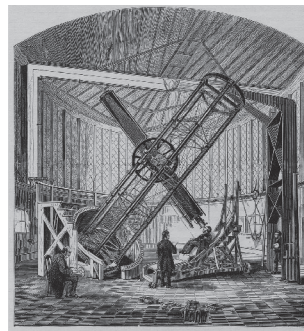
Iでは、アメリカン・ボード宣教師のデイヴィス、京都府知事顧問の山本覚馬、そして新島襄の三人をとりあげています。

本常設展の会場は、企画展示の会場でもあるジェームズ館107号室です。皆様のご来場をお待ちしております。

同志社大学
天文同好会創立50周年記念
特別展「新島襄の見た宇宙」はたとしみち
大学心理学部教授・天文同好会顧問 畑敏道

2016年5月10日から6月25日にかけて、ハリス理化学館同志社ギャラリーにて上記特別展が開催された（社史資料センターと天文同好会の共催）。展示の目玉は、新島先生が岡山の骨董屋で入手したとされる天球儀であった。天球儀とは天空に見立てた球体の表面に星々の位置を印したもので、プラネタリウムで透明なドームに投影された星々を、ドームの外側から眺めている様子を再現したような模型である（ただし半球ではなく球である）。

新島先生が渡米前から同志社設立に至るまでの折々に天文学に関わっていたことを、今回のイベントを準備する過程で初めて知った。渡米前には球面三角法に代表される航海天文学として、欧米滞在中には一般教養や先進的な科学/技術の象徴として、帰国後は同志社のリベラルアーツ教育や理化教育のための科目として、それぞれ触れていたらしいということが資料

新島先生所蔵と伝えられる天球儀
(同志社大学図書館所蔵)グリニッジ天文台の「巨大赤道儀」と
12.8インチ屈折望遠鏡
(Graham Dolan氏所蔵
www.royalobservatorygreenwich.org)

からうかがえた。

個人的に心を惹かれた資料は、岩倉使節団の一員としてイギリスを訪れた際に、世界標準時を決める子午線上にあるグリニッジ天文台で「水力によって回転する輪により、地球の自転に合わせて回る装置」を見学したことを示す日記の断片であった。天文に興味の多い方にはこれが何のことなのか、またなぜこんな記述に心惹かれるのか、おそらく見当がつかないであろう。実はこれは「赤道儀」と呼ばれるもので、望遠鏡を搭載し、星の日周運動を追跡するための装

置である。この時代に赤道儀を見られていたとは。しかも水力で駆動する？み、見たい…。私自身学生時代にこの同好会に所属しており、図らずも胸の振り子が鳴ったという次第です。

期間中、クラーク・チャペルにて展示に関連する講演会も開催された。西村昌能氏（元京都府洛東高等学校教諭）には新島先生と天文学、宮島一彦（元同志社大学教授・前同志社大学天文同好会顧問）には古い天球儀に関するお話をいただいた。しばし憂き世を離れた穏やかな時空に漂った、葵祭の日

産学協同での駅づくり
旧礼拝堂の長椅子を設置こ じょうあきら
中学校・高等学校職員 古城郷

「八幡前駅プロジェクト」は、同志社中学校の有志生徒と叡山電車による産学協同の「素敵な駅」をつくる取り組みです。「大学・社会人へつながる学び」をテーマに展開するこのプロジェクトは2013年から始まり、現在は第5期メンバーにより行われています。

1997年に地下鉄が延伸開通する以前、同志社岩倉キャンパスに通う同志社生は、主な登校手段として市バスまたは叡山電車を利用していました。最寄りとなる八幡前駅は活気にあふれ、生徒もまた愛着をもつて日々乗降していました。叡電八幡前駅と同志社は、長い間、地域のシンボルとして互いに支え合ってきました。しかし現在、地下鉄利用者が増え続け、八幡前駅の通学利用者は中・高全体の1割ほどまでに減少し、また周辺地域の住民も少子高齢化が進み、総じて八幡前駅からは活気が失われています。



旧礼拝堂の長椅子は高校校舎にも点在する

『町の人にとつても、同志社にとつても大切な八幡前駅を、自分たちの手でもう一度素敵な駅にしたい。』その思いで、これまでに「手すりの塗装」「壁新聞の季刊発行」「クリスマスデコレーション」「駅の全面塗装」「マスコットキャラクターハット駅長の考案」など、数多くの取り組みを行ってきました。

この度、プロジェクトの一環として、同志社高等学校の旧礼拝堂で1955(昭和30)年～2010(平成22)年まで55年間使用されていた長椅子を、八幡前駅ホームに設置することを発想し実現にいたりしました。2016年6月23日に行われた除幕式で木村良己校長は「子どもたちの成長の息吹を見守ってきた椅子が、地域の発展につながることを望みたい」と語り、翌日の京都新聞にも掲載されました。八幡前駅が同志社とゆかりの深い駅であることを演出することで、生徒や卒業生のみならず、周辺地域住民の方々や観光客にとつても、駅への愛着を持っていただけのことと期待しています。(3ヶ月の期間限定設置。継続は検討中です。)



生徒のアイデアで駅舎はますます明るく

同志社香里が育むもの
～体育祭を通して～ぬま づ り な
香里中学校・高等学校教諭 沼津里奈

5月12日木曜日、同志社香里高等学校体育祭が行われました。本校では各学年の学年種目が目玉となっており、私の担任する高校二年生は、応援合戦というクラス対抗競技に力を注いでいました。

私は本校に赴任して今年で2年目になりますが、今までで一番驚いたのは『生徒たちが自主的に各行事の目標に向かって取り組んでいく』という、積極的な姿勢でした。教員のサポートは必要最小限で、自分たちで試行錯誤し、悩みながらもクラスを自分たちで向上させていく力に、本当に感心しました。そして、その姿は、私に教員としての在り方を教えてくれるありがたいものでした。

新クラスが始まって間もなく、体育祭の応援合戦はSHRでの議題に上ります。ダンス部の子たちが中心となり、クラスの子たちの意見を聞いて応援合戦の詳細を決めてくれました。

しかしSHRの時間は月曜と木



曜の各20分しかなく、非常に限られた時間です。部の大会を体育祭前に控えているにも関わらず、クラスのために放課後や朝早く来て取り組んでくれるダンス部の生徒たちの姿は、私の胸を打ちました。それは、彼女たちをもっと近い距離で見ているクラスメイトも同じでした。彼女たちの努力が生徒の心を動かし、協力して朝や放課後に練習するようになりました。いつの間にかクラス全体が自然と応援合戦に向けて一つとなり、楽しんで努力を重ねるようになりました。

クラスの努力は実り、応援合戦での優勝をつかむことができました。その中で、私が一番心に残っているのは、生徒たちがお互いに「ありがとう」と言い合って泣く姿です。誰かだけが頑張るのではなく、全員が自分たちの意志で努力したからこそ言葉だと思ふと、これほど尊いものはないと感じました。

自ら考え、進んでいく力は、同志社香里の校風が育んだものだと感じます。その中で、生徒たちとともにこれからも歩んでいけることを幸せに思います。



Enterprise Challenge 世界大会への取り組み

国際中学校・高等学校教諭 ^{にしだきくお} 西田喜久夫

Global Enterprise Challenge (以下 GEC) は、青少年のイノベーションへの興味を喚起するために2001年に始まった国際大会である。本校は2004年に日本代表チームとしてネット参加して以来、現在まで8回の世界大会出場を果たしている。

この大会は4人以上10人以内の高校生でチームを結成し、テーマとして出される世界的な社会問題について、12時間以内はその解決策を英語で2ページの事業プランと3分の動画プレゼンテーションにまとめて提出し、最終的に創造性・革新性、実現性、市場性、コミュニケーション能力などの点で総合的に評価・審査される。

今年は、校内選考の結果、高校3年6人と高校2年4人からなるチームを編成、3月に行われた国内予選を3位で通過したものの、世界大会が急遽中止となったため従来 GEC の上位校が参加していた i S E C (International Science

Enterprise Challenge) に出場することとなった。結果は第2位という成績を残した。

この大会は、実際の社会への関心、科学的なものへの興味・知識、コミュニケーション能力、英語力、時間のマネージメント、アントレプレナーシップなど実にくさんのものを要求される大会である。その意味でも生徒たちの挑戦後の満足度は非常に高い。世界基準で世界と対等に闘い、世界のビジネスを肌で感じる、とても貴重な体験である。



12時間チャレンジ中の様子

「宗竹庵」 茶室披き

女子中学校・高等学校教諭 ^{きさきりえこ} 木咲利枝子

新島八重の茶名をいただいた「宗竹庵」の茶室披きが、晴れ渡る2016年5月7日に行われました。

裏千家より千宗室家元ご揮毫の扁額をご寄贈いただき、茶室披きには千玄室大宗匠にご来臨の栄を賜りました。

茶室披きに先立ち、黎明チャペルで行われた目録贈呈式では、大谷實総長、辻村好女子中学校・高等学校校長に続いて、大宗匠がご挨拶されました。裏千家歴代のお家元が同志社ご出身ということもあり、心に染み入るお話をしてくださり、皆が心を新たにしように感じました。

扁額除幕式が行われ、その後新しい命が吹き込まれた「宗竹庵」で、茶室披きの茶会が開かれました。大宗匠やご来賓の方々のお計らいで、茶道クラブの生徒たちも同席させていただき、凛とした中に和やかな茶会となりました。

茶会後には、大宗匠から生徒一



目録の贈呈



千宗室家元揮毫の扁額

人ひとりに励ましの言葉を掛けてくださり、記念撮影や握手にも応じてくださいました。

この素晴らしい時間は、茶道を学んでいく生徒たちにとって未来への糧となり、励みとなるに違いないと思います。関わってくださった沢山の方々への感謝の思いを忘れず、いつも清々しい和室であるよう初心を持ち続けたいと思います。



茶会



千玄室大宗匠のご挨拶